

小児科

1. スタッフ（平成24年4月1日現在）

			(専門)
科 長(教 授)	桃井真里子		神経
副 科 長(教 授)	山形 崇倫		神経
副 科 長(教 授)	白石裕比湖		循環器
外 来 医 長(講 師)	森 雅人		神経
病 棟 医 長(学内講師)	横山 孝二		消化器・肝臓
病 棟 医 長(講 師)	南 孝臣		循環器
医 員(教 授)	杉江 秀夫		神経・代謝 内分泌
	(学内教授) 森本 哲		血液・腫瘍・ 免疫
	(准 教 授) 河野 由美		新生児
	(講 師) 福田冬季子		神経・代謝 内分泌
	柏井 良文		血液・腫瘍
	矢田ゆかり		新生児
	熊谷 秀規		消化器・肝臓
	(学内講師) 佐藤 智幸		循環器
	門田 行史		神経
	小高 淳		腎臓
	(助 教) 小池 泰敬		新生児
	伊東 岳峰		腎臓
病 院 助 教	佐藤 優子		喘息 アレルギー
	西村 仁		新生児
	岡元 典子		神経
	齋藤 貴志		腎臓
	中村 幸恵		血液・腫瘍
	早瀬 朋美		血液・腫瘍
	鈴木 由芽		新生児
	俣野 美雪		新生児
	石井 朋之		
	小熊真紀子		
	高田亜希子		循環器
	池田 尚広		
	勝部奈都子		
	川原 勇太		
	木村 岳人		
	下澤 弘徳		
	谷口 周平		
	宮内 彰彦		
レジデント	13名		

2. 診療科の特徴

当科は小児の総合診療及び多岐にわたる専門診療を担当している。総合診療部の担当する外来のほかに、神経、心臓、肝消化器、腎臓、代謝・内分泌、血液・腫瘍、膠原病、喘息・アレルギー、遺伝、新生児、心理の各専門外来があり、こども医療センター内で他科の小児専門外来とも連携をとって診療にあたっている。また、救急医療では地域医療機関と連携して、三次救急の受け入れの重要な役割を果たしている。

病棟は急性期病棟、慢性期病棟、周産期センター新生児集中治療部門に別れ、それぞれ38床、38床、36床の計112床のベッド数を有している。必要に応じて小児集中治療室での治療も行う。子どもと家族のニーズに応じた包括的な小児医療と、各分野の専門性の高い検査や治療などの高度な医療を提供している。

・関連領域専門医認定施設

日本小児科学会専門医研修施設
日本小児神経学会専門医研修認定施設
日本人類遺伝学会認定研修施設
日本超音波医学会認定専門医研修施設
日本てんかん学会専門医認定研修施設
日本小児循環器学会専門医修練施設
日本小児血液・がん専門医研修施設
日本周産期・新生児医学会基幹研修施設

・認定医

日本小児科学会小児科専門医 桃井真里子 他45名
PALS Provider 白石裕比湖 他12名
日本小児神経学会認定小児神経科専門医 桃井真里子 他5名
日本小児循環器学会専門医 白石裕比湖 他5名
日本医師会認定産業医 桃井真里子 他4名
日本人類遺伝学会認定臨床遺伝専門医 山形 崇倫 他3名
ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター 柏井 良文 他2名
日本周産期・新生児医学会専門医 矢田ゆかり 他1名
日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コースインストラクター 矢田ゆかり 他1名
日本周産期・新生児医学会専門医暫定指導医 本間 洋子
日本がん治療認定医機構暫定教育医 柏井 良文 他1名

日本がん治療認定医機構	がん治療認定医	柏井 良文 他1名
日本内科学会	認定医	桃谷 孝之
日本心臓病学会	FJCC	白石裕比湖
日本人類遺伝学会	認定臨床遺伝指導医	山形 崇倫
日本てんかん学会	認定臨床専門医	山形 崇倫
日本東洋医学会	専門医	桃谷 孝之
日本血液学会	指導医	森本 哲
日本血液学会	専門医	森本 哲
日本臨床腎移植学会	認定医	金井 孝裕
日本消化管学会	胃腸科認定医	熊谷 秀規
日本透析医学会	専門医	金井 孝裕
日本超音波医学会	超音波専門医	齋藤 真理
BLS Provider		本間 洋子
日本小児血液・がん学会	小児血液・がん暫定指導医	森本 哲
日本小児精神神経学会	認定医	松本 静子

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

とちぎ子ども医療センターの1年間の小児科総合診療部、専門診療部および入院診療実績について報告する。なお周産期母子総合医療センターのNICUについても一部併記する。

3-1. 外来診療

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	3,408人
再来患者数	35,880人
紹介率	58.9%

2) 小児科総合診療部外来

医師：桃井 眞里子（部科長・兼）、山形 崇倫（兼）、白石 裕比湖（兼）、杉江 秀夫（兼）、河野 由美（兼）、森本 哲（兼）、森 雅人（兼）、福田 冬季子（兼）、柏井 良文（兼）、南 孝臣（外来医長・兼）、矢田 ゆかり（兼）、野崎 靖之（兼）、横山 孝二（兼）、佐藤 優子（兼）、伊東 岳峰（兼）、小高 淳（兼）、青柳 順（兼）、長嶋 雅子（兼）、小熊 真紀子（兼）、岡元 典子（兼）、翁 由紀子（兼）

診療実績：

総合診療部では、午前中の外来診療と午後の急患対応を行っている。小児科専門医がそれぞれの専門診療部と兼務で診療を行っている。原則として初診は紹介受診のみとしているが、直接受診される場合も多い。発熱、けいれん、咳、喘鳴、腹痛、頭痛、嘔吐・下痢、などの急性症状に加えて、成長発達上の問題、不定愁訴、不登校、自律神経障害、夜尿症なども多い傾向にある。基礎疾患を有し、各専門外来に通院している小児の急性症状にも対応している。小児科の診療では常に総合的判断を必要とするため、総合診療部で問題を把握し、適切な初

期治療、あるいは検査を実施し、必要に応じて、病棟や各専門診療部に振り分ける場合と、しばらく総合診療部外来で診療後、地域かかりつけ医にお戻りするところがある。全領域にわたる能力を必要とするため、ベテランの小児科専門医が担当している。年間約10,000人が受診した。月別患者数は急性疾患の流行にも左右されるが、夏季には学校検診の二次精密検査などで外来受診者が増える傾向にある。

2011年、月別患者数：（ ）内は2010年

	1月	2月	3月	4月
初診患者数	74 (82)	62 (103)	64 (106)	57 (107)
再診患者数	774 (628)	623 (657)	775 (810)	633 (713)
合計患者数	848 (710)	685 (760)	839 (916)	690 (820)
	5月	6月	7月	8月
初診患者数	82 (81)	78 (112)	102 (132)	132 (144)
再診患者数	761 (665)	837 (852)	855 (796)	903 (864)
合計患者数	843 (746)	915 (964)	957 (928)	1,035 (1,008)
	9月	10月	11月	12月
初診患者数	69 (110)	63 (98)	89 (98)	74 (93)
再診患者数	790 (678)	706 (779)	734 (795)	776 (823)
合計患者数	859 (788)	769 (877)	823 (893)	850 (916)

2011年年間患者数：（ ）内は2010年

新患者数	946 (1,266) 人
再診患者数	9,167 (9,060) 人
合計患者数	10,113 (10,326) 人

3) 小児神経外来

医師：桃井 眞里子、山形 崇倫、杉江 秀夫、森 雅人、福田 冬季子、野崎 靖之、桑島 真理、門田 行史、長嶋 雅子

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
865	786	991	937	820	974
7月	8月	9月	10月	11月	12月
899	1,096	948	855	882	919

年間総受診数10,972人

主な診療対象：

複数の疾患を持つ例が多いため、主要疾患の1か月受診者数の概数を記載する。てんかん 400-500人、脳性麻痺や脳炎等による痙性麻痺 100-150人、自閉性障害、知的障害、学習障害や注意欠陥多動性障害350-400人、先天代謝異常症 約20人、染色体異常や中枢神経形成異常 約80人、神経皮膚症候群 20-30人、筋ジストロフィー、重症筋無力症などの神経筋疾患 30-40人、白質脳症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患 4-5人、チック障害、吃音、頭痛等 40-50人であった。この他、人工呼吸器外来において、21人の在宅人工呼吸器患者を診療している。

4) 遺伝外来

医師：野崎 靖之

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
15	15	23	26	24	23
7月	8月	9月	10月	11月	12月
27	19	24	20	16	9

年間総受診数 241人

主な診療対象：

Down症候群、染色体異常症候群、先天奇形症候群、骨系統疾患。なお、染色体異常、遺伝性疾患は、神経外来に通院している患者も多い。

5) 小児循環器外来

医師：白石 裕比湖、菊池 豊、片岡 功一、平久保 由香、南 孝臣、佐藤 智幸

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
276	267	362	312	272	364
7月	8月	9月	10月	11月	12月
336	360	342	357	257	301

年間総受診数 3,806人

主な診療対象：

心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、完全大血管転位症、Fallot 四徴症、完全大血管転位症、肺動脈閉鎖症などの先天性心疾患の術前と術後、心筋症、不整脈、川崎病、心雑音の精査などを中心に外来診療している。

6) 小児腎臓外来

医師：金井 孝裕、伊東 岳峰、小高 淳、齋藤 貴志、青柳 順、中島 尚美

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
130	129	159	136	133	125
7月	8月	9月	10月	11月	12月
153	149	143	132	150	123

年間総受診数 1,855人

主な診療対象：

小児特発性ステロイド感受性ネフローゼ症候群、40～50名；IgA腎症、30～40名；膜性増殖性糸球体腎炎、5～10名；ループス腎炎、4名；巣状糸球体硬化症、5～10名；膜性腎症、3～5名；Alport症候群、5名；膀胱尿管逆流症、15名；その他、低形成腎、嚢胞腎、尿管細管アシドーシス、慢性腎不全(腎移植後の症例を含む)などを診療している。

外来の特色：

急性血液浄化療法から、維持透析療法・生体腎移植まで、ほぼ小児腎疾患のすべてを守備範囲としている。また、他の小児専門診療科からの依頼を受けて、血漿交換

療法や、G-CAPなどの体外循環療法も行っている。院外との連携では県内はもとより、群馬・埼玉・茨城などからも、紹介を受けた。

7) 小児代謝・内分泌外来

医師：杉江 秀夫、福田 冬季子

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
145	125	180	169	166	176
7月	8月	9月	10月	11月	12月
150	192	158	158	182	128

年間総受診数 1,929人

主な診療対象：

先天性代謝異常症スクリーニング検査の2次検査、先天代謝異常症(OTC欠損症、ガラクトース血症、糖原病など)、高コレステロール血症、糖尿病などの代謝性疾患、および成長ホルモン分泌不全性低身長、副腎過形成、甲状腺機能低下症、バセドウ病、思春期早発症、性腺疾患などの内分泌疾患が主体である。

8) 小児消化器・肝臓外来

医師：桃谷 孝之、熊谷 秀規、横山 孝二、大谷 英之、木村 岳人

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
70	83	90	102	83	87
7月	8月	9月	10月	11月	12月
104	101	80	114	80	93

年間総受診数 1,087人

主な診療対象疾患：

炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)、消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍、ヘリコバクターピロリ除菌など)、B型肝炎(キャリア、母子感染予防措置)、C型肝炎(キャリア、インターフェロン療法、キャリア母体産児)、胆道閉鎖症(術後を含む)、肝内胆汁うっ滞症(Alagille症候群、原発性硬化性胆管炎、新生児肝炎など)、肝硬変(胆道閉鎖症術後、COACH症候群など)、慢性肝炎(自己免疫性肝炎、輸血後肝炎など)、急性肝炎(CMV肝炎、EBV肝炎、TTV肝炎など)、急性膵炎、非アルコール性脂肪肝炎、肥満症、代謝性肝疾患(Wilson病、NICCDなど)、若年性ポリープ、過敏性腸症候群などの内科的診療を行っている。外科疾患(虫垂炎、Hirschsprung病、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、胃食道逆流など)、肝生検、上下部消化管内視鏡検査に関しては、小児外科、移植外科、消化器内科と連携を取りながら診療を行っている。

9) 新生児フォローアップ・シナジス外来

医師：河野 由美、高橋 尚人、矢田 ゆかり、
本間 洋子
診療実績：
新生児フォローアップ

1月	2月	3月	4月	5月	6月
182	168	196	174	176	185
7月	8月	9月	10月	11月	12月
191	305	193	175	186	179

年間総受診数 2,310人

シナジス外来

1月	2月	3月	4月	5月	6月
32	40	52	—	—	—
7月	8月	9月	10月	11月	12月
—	—	—	27	37	37

年間総受診数 225人

主な診療対象：

新生児フォローアップ外来は、NICU退院児を対象として、退院後2週間から小学校3年生まで長期フォローアップを行っている。診療内容は成長・発達の評価とともに合併症の治療や精査、必要な養育支援である。気管切開、在宅酸素療法や経管栄養などの在宅医療を必要とする児も多い。外科系診療科、心理面接・心理検査、リハビリテーション部門と連携して包括的な診療を行っている。新生児難聴スクリーニングの精査・フォローも行っている。冬季に行われるRSV重症化予防のために別枠で設置したシナジス外来で225名、新生児外来でほぼ同数例にパリビズマブを接種した。

10) 小児血液・腫瘍外来

小児血液外来

医師：森本 哲、柏井 良文、早瀬 朋美、翁 由紀子
診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
148	149	206	170	133	161
7月	8月	9月	10月	11月	12月
178	276	180	163	179	189

年間総受診数 2,132人

主な診療対象：

急性リンパ性白血病（ALL）や急性骨髄性白血病、若年性骨髄単球性白血病（JMML）、悪性リンパ腫、慢性骨髄性白血病などの血液腫瘍疾患、神経芽細胞腫（NBoma）やウイルス腫瘍、肝芽腫、網膜芽腫、脳腫瘍などの悪性固形腫瘍、ランゲルハンス細胞組織球症（LCH）や血球貪食性リンパ組織球症（HLH）の組織球症、血友病や特発性血小板減少性紫斑病、遺伝性血栓症などの凝固系疾患、再生不良性貧血や遺伝性球状赤血球症、サラセミアなどの赤血球系疾患、慢性良好中球減少症や重症複合型免疫不全、慢性GVHDなどの白血球・免疫疾患。

2011年の新規腫瘍性症例は、ALL 2例、JMML 1例、悪性リンパ腫 1例、TAM 1例、NBoma 3例、Wilms 1例、肝芽腫 1例、網膜芽細胞腫 1例、脳腫瘍 2例、未分化肉腫 1例、lipoblastoma 1例、LCH 1例、HLH 1例であった。

11) 小児喘息外来／アレルギー外来

医師：佐藤 優子、荒川 洋一
診療実績：（延べ人数）

1月	2月	3月	4月	5月	6月
23	23	24	23	11	—
7月	8月	9月	10月	11月	12月
13	31	35	39	20	40

年間受診数 282人

主な診療対象疾患：

1. 気管支喘息、運動誘発喘息。

発作重症度としては、中等症および重症持続型の患児が大半を占める。心疾患や神経疾患など、基礎患児をもつ児も多く、他の専門外来と連携をとり診療している。気管支喘息を基礎疾患にもつ患児の術前評価も行っている。薬物療法として発作重症度にあわせた早期からの吸入ステロイド薬導入や、喘息教育などを行っている。

2. 食物アレルギー、アナフィラキシー、薬物アレルギー、アトピー性皮膚炎、化学物質過敏症など。

近年増加傾向にある食物アレルギー児に対して、原因食物の特定や除去食導入を行い、栄養指導や薬物療法、食物負荷試験を施行している。

アナフィラキシーに対する急性期の治療と、エピペン[®]処方を行っている。また、食物アレルギーのある児に対して麻疹風疹ワクチンやインフルエンザワクチン接種を随時施行している。

12) 小児免疫外来（膠原病外来から名称変更）

医師：森本 哲、川原 勇太
診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
45	49	52	37	23	44
7月	8月	9月	10月	11月	12月
43	45	44	42	27	39

年間総受診者数 490人

主な診療対象：

若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス（SLE）、シェーグレン症候群（SJS）、若年性皮膚筋炎（JDM）など。

2011年の主な新規症例は、JIA 3例、SLE 2例、SJS 1例、JDM 1例、高安動脈炎 1例、紅彩炎 2例であった。

13) 胎児心エコー外来

医師：白石 裕比湖

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
6	7	8	3	4	2
7月	8月	9月	10月	11月	12月
4	4	3	4	4	2

年間総受診数51人

主な診療対象：

胎児の左心低形成症候群、三尖弁閉鎖症、両大血管右室起始症、Fallot 四徴症、完全大血管転位症、多脾症候群、心臓腫瘍、不整脈など。

その他：

院内産科あるいは産科開業医から紹介された、胎児に先天性心疾患や不整脈を持つ妊婦において、胎児心エコー図検査による出生前診断を実施した。

14) 1ヵ月健診

乳児健診は原則当院産科から退院した生後1ヶ月児の健診を行っている。また新生児マススクリーニングの結果を外来で家族に説明している。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
70	72	97	70	85	67
7月	8月	9月	10月	11月	12月
68	98	91	58	91	54

年間総受診数 1,019人

15) 夜間・休日診療

診療実績：夜間、休日に受診し、小児科医が診療した患者数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
397	292	334	273	278	282
7月	8月	9月	10月	11月	12月
320	242	318	291	261	342

年間総数 3,630人

16) 心理検査・心理面接

臨床心理士：星子 真美、氏家 莉沙、村上 瑠璃、田所 まり子

診療実績：

心理検査件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
38	50	29	39	21	41
7月	8月	9月	10月	11月	12月
50	59	37	47	43	33

年間総検査件数 487人

心理面接件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
119	128	98	99	82	107

7月	8月	9月	10月	11月	12月
111	111	104	97	98	91

年間総面接件数 1,245人

主な対象：

検査内容は、神経外来からの知能・発達検査、新生児外来からの極低出生体重児のフォローアップのための発達検査の依頼が主であった。心理面接は、心身症、不登校などの適応障害、発達障害児の二次障害への対応等の相談依頼が多かった。患児に対しては、カウンセリング、プレイセラピー、臨床動作法を行っており、家族の相談にも併せてのっている。

3-2. 小児科入院診療

小児科は2A病棟（急性期病棟）、4A病棟（慢性期病棟）に分かれている。また総合周産期母子医療センターNICUの入院もあわせて報告する。

2A病棟における超重症児（者）受入は657名中72名（11%）です。4A病棟では、在宅人工呼吸器療法を必要としている小児で、かつ小児慢性特定疾患研究事業参加者を対象にレスパイト入院を受け付けている。平成22年のレスパイト入院患者数はのべ36名。

1) 月別病棟新入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2A	63	46	57	52	50	53
4A	35	32	29	23	33	31
計	98	78	86	75	83	84
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2A	57	51	62	54	58	54
4A	29	41	35	30	40	32
計	86	92	97	84	98	86

2A + 4Aの総計年間入院患者数 1,047人

2) 入院患者の疾患別内訳（人数）

	疾患名	病棟	
		2A	4A
1	先天異常・遺伝疾患		
	先天性奇形症候群	1	4
2	先天代謝異常症		
3	感染症		
	RSウイルス	42	1
	インフルエンザ	2	
	単純ヘルペス	1	
	アデノウイルス		1
	その他	3	1
	細菌感染症		
	敗血症	7	
	化膿性頸部リンパ節炎	3	
	蜂窩織炎	3	
	急性中耳炎		
	ブドウ球菌	4	1

	溶連菌	1	
	マイコプラズマ感染症	3	
	その他	3	
4	免疫疾患・膠原病		
	血管性紫斑病	2	
	若年性特発性関節炎	2	3
	SLE	3	2
	その他	3	1
5	アレルギー性疾患		
	気管支喘息	63	4
	薬剤、食物アレルギー		
6	呼吸器疾患		
	クループ症候群	4	1
	急性気管支炎	107	6
	気管支肺炎	15	1
	急性咽頭炎・扁桃腺炎	13	2
	肺炎	62	2
	無呼吸症候群	3	6
	膿胸		
	慢性肺疾患		2
	呼吸不全	8	1
	その他	10	4
7	神経疾患		
	熱性痙攣	25	1
	軽症胃腸炎に伴うけいれん	1	
	痙攣重積発作	25	
	てんかん	22	16
	急性脳炎		
	インフルエンザ脳症	1	
	その他の脳症	14	4
	ウイルス性髄膜炎	7	1
	細菌性髄膜炎	3	1
	急性小脳失調症	1	
	運動ニューロン疾患		4
	ミトコンドリア異常症	3	2
	脳性麻痺	1	5
	脳腫瘍		31
	水頭症		
	筋ジストロフィー	1	2
	ミオパチー	1	
	重症筋無力症		1
	筋疾患	2	2
	その他	13	
8	精神・心理疾患		
	心身症	1	
	その他	1	1
9	循環器疾患		
	先天性心疾患		
	心房中隔欠損		9
	心室中隔欠損		24
	その他	3	78
	不整脈	1	8
	心不全		3

	川崎病	32	11
	心膜炎		
	原発性肺高血圧		1
	ファロー四徴症		19
	拡張型心筋症		
	その他		1
	心臓カテーテル検査		
10	消化器疾患		
	急性胃腸炎	31	4
	腸閉塞	3	
	胃十二指腸潰瘍	1	
	急性膵炎	2	
	潰瘍性大腸炎	6	
	炎症性腸疾患		
	クローン病	3	1
	腸重積		
	胆管炎	3	
	急性肝炎	3	
	ウイルソン病		1
	その他	9	7
11	血液・腫瘍疾患		
	特発性血小板減少性紫斑病	9	9
	血友病		
	血球貪食症候群		1
	組織球性壊死性リンパ節炎		
	ランゲルハンス細胞組織球症		1
	悪性リンパ腫		
	急性リンパ性白血病		44
	急性骨髄性白血病		4
	再生不良性貧血	1	2
	好中球減少症		
	鉄欠乏性貧血		
	その他	2	26
12	腎泌尿器疾患		
	急性腎盂腎炎	21	3
	急性糸球体腎炎	3	
	慢性糸球体腎炎		1
	IgA 腎症	1	1
	ネフローゼ症候群	8	6
	紫斑病性腎炎	1	
	溶血性尿毒症症候群		
	慢性腎不全		
	腎生検	9	
	その他		3
13	代謝・内分泌疾患		
	糖尿病	4	
	低身長	1	
	尿崩症		2
	先天性副腎過形成		
	有機酸代謝異常症		
	その他	2	5
14	整形外科疾患		
15	中毒・事故・外傷		

	被虐待児症候群		
	薬物中毒	1	
	ALTE	2	
	育児過誤	1	1
	窒息	3	1
	その他	1	
16	新生児疾患		
17	外科系手術入院		

3) 新生児集中治療部 (NICU) の入院実績

(一部再掲)

年間入院数411人 (再入院14人除く)

出生体重 (BW) 別、在胎週数 (GA) 別入院数および死亡数を示す。人工呼吸症例数は150人 (全入院の36.4%) で、NICU入院中に手術を行った外科症例 (外科転科直後手術例ふくむ) は15人、死亡退院は7人であった。

GA (W)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
22	1	0	1	0.0
23	2	2	0	100.0
24	3	1	2	33.3
25	5	5	0	100.0
26	5	4	1	80.0
27	10	10	0	100.0
28	11	11	0	100.0
29	8	7	1	87.5
30	10	10	0	100.0
31	10	10	0	100.0
32	9	9	0	100.0
33	22	22	0	100.0
34	31	31	0	100.0
35	35	35	0	100.0
36	31	31	0	100.0
37以上	218	216	2	99.1
計	411	404	7	98.3

BW (g)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
<500	3	2	1	66.7
<750	14	11	3	78.6
<1,000	11	11	0	100.0
<1,250	18	18	0	100.0
<1,500	21	20	1	95.2
<1,750	28	27	1	96.4
<2,000	57	57	0	100.0
<2,500	97	96	1	99.0
>2,500	162	162	0	100.0
計	411	404	7	98.3

3-3. 主な検査・特殊治療

1) 心臓カテーテル検査

心臓カテーテル検査・治療の総数は129件であった。対象疾患は、心室中隔欠損27件、心房中隔欠損7件、

Fallot四徴症/両大血管右室起始症21件、房室中隔欠損症6件、完全大血管転位9件、川崎病5件、動脈管開存症19件、その他 (左心低形成症候群、三尖弁閉鎖、肺動脈閉鎖、単心室など) 35件であった。カテーテル治療61件の内訳は、バルン血管形成術19件、心房中隔裂開術3件、動脈管/血管コイル塞栓術33件、バルン弁形成術6件であった。

2) 腎生検

腎疾患については、2011年に、19件の腎生検を行った (開放腎生検を含む)。

3) 造血細胞移植

2010年に造血細胞移植を6回行った。内訳は、副腎白質ジストロフィー1例 (非血縁骨髄)、ALL1例 (非血縁骨髄)、重症複合型免疫不全症1例 (非血縁臍帯血)、再生不良性貧血 (一致同胞)、慢性活動性EBウイルス感染症 (一致同胞)、MDS RAEB2 (一致同胞) であった。

3-4. 小児科カンファレンス

毎週火曜日、水曜日、金曜日の朝に新入院患者の紹介と討議、水曜午後の教授回診にて入院患者の病状報告と討議を行った。

小児科における症例検討会 (CC) は毎週木曜日18時からカンファレンス室で入院例を中心に検討した。以下症例検討会のテーマと担当を示す。

日時	テーマ	担当
1月27日	心臓良性腫瘍が原因として疑われる、脳梗塞・心筋梗塞の1例	川又、谷口 (祐)
2月3日	胆道閉鎖は否定されたが胆汁うっ滞が進行している1乳児例	岡、横山
2月24日	急性脳症の一例 (病初期に可逆性脳梁膨大部病変を呈した急性壊死性脳症の一例)	谷口 (祐)
3月3日	小児の心移植について 拡張型心筋症の1小児例から学んでいること	佐藤 (智)
4月7日	頻拍性心筋症を伴ったWPW症候群の1乳児例	鈴木 (峻)、和田、佐藤 (智)
4月14日	発熱と炎症反応上昇を繰り返す裂脳症の女児	木村
4月28日	潰瘍性大腸炎に膵炎を併発した女児例	小高、黒岩
5月12日	ケトン食を導入した難治性てんかんの一例	池田 (貴)、長嶋
5月26日	急性腹症で発症した大動脈炎症候群の女子例	小高、黒岩

6月9日	慢性活動性EBウイルス感染症の1男児例	山岸、早瀬
6月23日	臍帯血移植を行った重症複合免疫不全症の1例	池田（尚）、宮澤
6月30日	Duchenne型筋ジストロフィーの治療	山形（第1回自治医科大学とちぎ子ども医療センターセミナー）
7月7日	辺縁系脳炎の診断と治療	柚木、鈴木（峻）
7月14日	CCのまとめの会	
9月8日	呼吸管理についてのレクチャー	森
9月14日	イオン飲料過剰摂取によるビタミンB1欠乏症	勝部、鎌田
9月21日	母体心拍停止後に娩出された児の予後～脳低温療法導入に向けて～	池田、鈴木（由）
10月6日	ステロイドパルス療法が奏効した急性肝炎重症型の一例	池田（尚）、鎌田
10月13日	血縁者間同種骨髄移植を施行したmonosomy7を有する骨髄異形成症候群の1例	川原
10月19日	僧帽弁腱策断裂により感染性心内膜炎を発症したと思われる乳児例	佐藤（智）
11月10日	大動脈症候群に対し免疫抑制剤投与中に結核性胸膜炎を発生した症例	小高、相良
11月17日	周産期良性低フォスファターゼ血症の1例	宮内
12月1日	脾臓内に発性する低エコー病変が診断の契機になった猫ひっかき病の1例	山岸
12月22日	急速に進行した重症急性膵炎の1例	伊東

4. 来年の目標・事業計画

とちぎ子ども医療センター小児科は、小児の高度医療を推進することを使命とし、小児科疾患の診療のみならず、センターにおけるあらゆる診療部門との連携により、小児の全ての疾患領域に対して高度な医療を提供する。次年度の目標として、①小児科専門診療部各領域における臨床研究を基盤とした小児高度医療の推進、難治性疾患の治療成績の向上、②慢性疾患、重症児の診療における地域医療機関との治療ネットワーク、在宅医療ネットワークの構築、③小児科総合診療部における紹介制の徹底と、地域医療機関との小児救急医療の役割分担の推進、小児三次救急医療の充実、④小児科医育成の一層の推進、を掲げる。